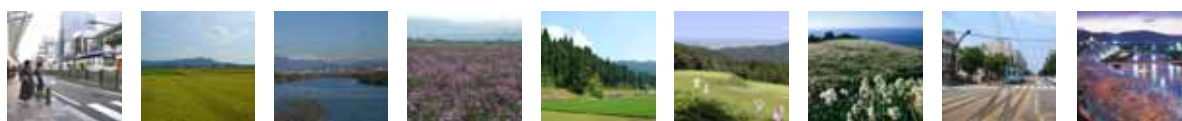


4



第4章 景観形成の方針

1. 福井らしい景観を形成するための基本方針
2. ゾーン別景観形成の方針

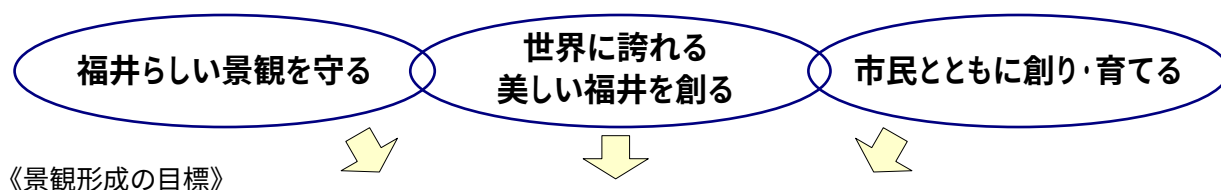
5つの基本方針と7つのゾーン、
ゾーンをつなぐ2つの景観軸で織りなす「福井らしい」景観

景観形成の目標で掲げた「四季彩織りなす風景都市」を実現するためには、日本の原風景とも言える美しい景観の保全及び継承、福井らしい景観と調和するまちのデザイン、市民協働の推進などといった、多様な取り組みを総合的に行っていく必要があります。

また、画一的な景観を形成するのではなく、全体としての調和を保ちながらも、地域の個性が感じられる景観形成に取り組んでいく必要があります。

そこで、景観形成に関する5つの基本方針を柱に、地域の景観特性に応じた7つのゾーン及び、各ゾーンをつなぐ2つの景観軸に関する景観形成の方針を定め、それぞれの取り組みが互いに織りなすことによって、目標とする景観像の実現を目指します。

《景観形成の基本理念》



四季彩織りなす風景都市
～住みたくなくなる心地よい景観をめざして～

5つの基本方針と7つのゾーン、
ゾーンをつなぐ2つの軸で織りなす景観



1. 福井らしい景観を形成するための基本方針

1-1 福井を象徴するシンボル景観の形成

- (1) まちの目印である足羽三山を際立たせる
- (2) 福井らしさを実感できる都心地区のシンボル性を高める
- (3) 悠久の自然と歴史、生活文化を感じる一乗谷を継承する
- (4) 人と自然に培われた越前水仙の里を保全する

1-2 福井の「地」となる自然景観との共生

- (1) まちの背景となる山並みの景観を保全する
- (2) ふるさと福井の原風景となる田園景観を保全する
- (3) 白砂青松と奇岩奇勝が続く海岸景観を保全する
- (4) まちに潤いを与える水辺景観を保全する

1-3 地域固有の歴史・文化的景観との共生

- (1) 地域固有の歴史景観を継承する
- (2) 人々の生活や営みに支えられた文化的景観を保全する
- (3) 地域固有の様相を残す伝統的家並みを保全する

1-4 魅力あふれる都市景観の形成

- (1) 快適で潤いのある道路景観を形成する
- (2) 福井らしい鉄道景観を演出する
- (3) 福井らしい建築物等を誘導する
- (4) 福井らしい屋外広告物を誘導する
- (5) 福井らしさをイメージするサイン等を設置する
- (6) 水と緑の回廊を創出する
- (7) 魅力ある夜間景観を創出する

1-5 福井らしい景観を育む人づくり

- (1) 福井プライドをもった市民の育成
- (2) 市民参画体制の確立
- (3) 優れたデザインを生み出す仕組みづくり

1-1 福井を象徴するシンボル景観の形成

(1) まちの目印である足羽三山を際立たせる

平坦な福井平野にあって、その中央にそびえる足羽三山は、海岸沿いや谷間の集落などを除き、市内の至る所からその雄姿を眺望することができる、まちの「目印」となっています。

また、市街地という都市空間にあって、古くから人々の憩いや信仰の場などとして親しまれるなど、市民の精神的なシンボル、心の拠り所にもなっていると同時に、四季を通じて様々な表情を変えるランドマークとしても重要な景観資源となっています。

本市におけるシンボル景観である足羽三山の自然やこれと密接に結びついた歴史・文化的な景観を保全・活用するとともに、周辺のまちなみの規制・誘導と合わせて、まちの「目印」として象徴的に演出するため、次のような取り組みを行っていきます。

① まちなかに四季を彩る自然を保全します

足羽三山は、多種多様な動植物の生息地であるとともに、まちなかに四季の変化を与える重要な景観資源となっており、桜やアジサイ、モミジ等の落葉樹などの樹木や良好な風致の保全を図ります。

② 足羽三山への眺望を保全します

まちの目印・シンボルである足羽三山への眺望を保全するため、その周辺における建築物や屋外広告物等の高さ、形態意匠、色彩の適正な規制・誘導を図り、足羽三山と一体となった良好なまちなみの形成を図ります。

③ 水や緑、灯りを活かしながら足羽三山への回遊性を高めます

足羽三山が市民にとってより身近なものとなるよう、足羽三山とその周辺に立地する数多くの寺社、自然史博物館、おさごえ民家園などを結びつける歩行者空間の充実を図るとともに、水や緑、灯りを活かしながら JR 福井駅や中心市街地などとのネットワークを形成し、回遊性の創出を図ります。

④ 視点場として整備・演出します

足羽三山からは、市街地をはじめ 360 度のパノラマ景観が広がっているほか、遠くは白山連峰などの山並みを眺望することができます。市民がふるさと福井を一望できる場所として、三段広場などにおける視点場の整備・演出を図ります。

<景観整備・誘導のイメージ>



(左：①足羽神社のシダレザクラ)
(下：②あじさいロード)
(右：③愛宕坂の登り口)



・桜やアジサイ、モミジなど、四季の変化を演出する樹木や植生の保全を図ります。



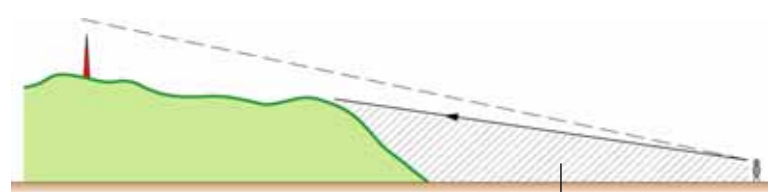
・自然と歴史文化が感じられる道として演出するとともに、特に回遊ルートである桜橋からの視認性を高めます。



・市街地や遠景の山並みを眺望する視点場としての整備・演出を図ります。
(上：④自然史博物館屋上からの眺望)
(下：⑤八幡山から見る市街地の夜景)



・自然と歴史が一体となった憩いや散策、レクリエーション活動としての充実を図ります。
(⑥おさごえ民家園)



・足羽三山への眺望を確保するため、その周囲における建築物等や屋外広告物の高さや形態意匠、色彩を規制します。



・足羽三山への眺望を保全するため、高さや色彩などの誘導を図ります。
(⑦足羽川沿いに大規模な広告物ができた場合のイメージ)

(2) 福井らしさを実感できる都心地区のシンボル性を高める

JR 福井駅一帯を中心とする都心地区は、県都福井市の玄関口であり、中心市街地としての都市機能が集積しているほか、道路や公園などの公共空間の整備が重点的に行われています。また、路面電車が走る光景は、福井固有の景観と言えます。

また、かつて城下町として栄えた地であり、戦災や震災により都市的に変化を遂げた中であって、福井城址や養浩館庭園などにその面影を偲ぶことができます。

さらに、市街地の中央を横断する足羽川は、特にその左岸には延長 2.2km におよぶ桜堤が続き、「さくら名所 100 選」にも指定されるなど、心象的にも市民のシンボルとして親しまれています。

福井らしい景観を象徴する優れた景観資源を良好に保全・活用するとともに、都市空間の中に埋没させないよう、公共空間やまちなみの中に積極的に取り込みながら、市民が誇りをもち、福井らしさを実感することができる風格ある景観を形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①県都福井の玄関口を良好に演出します

JR 福井駅は、訪れる人を迎え入れる広域的な玄関口であるため、周辺のまちなみの規制・誘導と合わせて、良質な都市イメージを印象付けるシンボリックな景観を形成します。

また、回遊の起点として、福井城址や足羽山などの存在を意識付けるとともに、歩いてみたくなるような仕掛けづくりや演出を図ります。

②質の高い都市空間を整備・誘導します

まちなか居住の場としてだけでなく、市内外から多くの人が集まってくる場所として、道路や公園などの公共空間を良好に整備・演出するとともに、建築物や工作物、屋外広告物などを適正に規制・誘導し、質の高い都市空間の形成を図ります。

③福井の「街」の礎となった歴史を活用します

福井城址や養浩館庭園、北ノ庄城址などの福井固有の歴史資源を保全するとともに、それら周辺の道路や公園などの公共空間及びまちなみとの一体的な整備・誘導を図ります。

さらに、どこにいてもその存在が感じられるような仕掛けづくりや演出を図ります。

④福井のシンボルとなる自然景観を活用します

福井の骨格的な水辺景観軸である足羽川は、桜堤を後世に伝えるとともに、河川敷や堤防を利用した身近な散策空間の整備、夜間のライティングなどにより、隣接する足羽山を含めた水と緑のネットワークを形成し、回遊性を創出するための仕掛けづくりを図ります。

⑤回遊性の創出、視点場の整備・演出を行います

舗装のグレードアップや水辺空間の活用、桜の回廊づくり、夜間のライティングなどにより、楽しみながら歩くことのできる、潤いのある歩行者空間の整備・演出を図ります。

また、駅前広場などの広場空間、大名町交差点などのまちかど、足羽川に架かる橋などは、視点場やたまりの空間としての整備・演出を図ります。

<景観整備・誘導のイメージ>



・JR 福井駅を降り立ったときに見える現在の景色



・JR 福井駅周辺は、駅前広場の整備と合わせて、訪れる人を迎え入れる玄関口、回遊の起点として整備・演出します。
・訪れる人が福井らしさを最初にイメージする場所として、特に周辺のまちなみの規制・誘導を行います。



・道路や公園などの公共空間は、緑豊かで統一感のある整備を進めるとともに、ライティングによる夜間景観の演出を行います。

・風格と賑わいが感じられる質の高い都市空間を創出します。



・福井城址や養浩館庭園、北ノ庄城址などの歴史性を活かした整備を進めるとともに、まちや人との結びつきを演出します。

・足羽川や用水などの水辺を活かした散策空間づくりを進めます。

・歩行者を重視した、楽しみながら歩ける回遊の道づくりを進めます。

(3) 悠久の自然と歴史、生活文化を感じる一乗谷を継承する

京文化を取り入れながらも独自の「朝倉文化」を開花させた戦国大名朝倉氏の城下町跡は、ゲンジボタルの生息地として知られる一乗谷川の清らかな流れ、佐々木小次郎が秘剣「つばめ返し」をあみだした場所かもしれないと言われている一乗滝、緑豊かな山並みと谷筋に広がる田園など、周辺の自然と一体となって、シンボリックな景観を形成しています。

福井県を代表する歴史観光拠点の一つとして、訪れる人が悠久の戦国ロマンを感じることでできる趣ある景観を形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①本物の歴史が感じられる一乗谷朝倉氏遺跡を保全・活用します

国の特別史跡、特別名勝に指定されている一乗谷朝倉氏遺跡をはじめ、その周辺に残る歴史的な資源を良好に保全し、未来へ引き継いでいくとともに、福井県を代表する歴史観光拠点の一つとして、訪れる人をもてなすための仕掛けづくりや演出を図ります。

②戦国ロマンの舞台となった美しい自然を保全します

一乗城山など、地区を取り囲む美しい山並みを保全するとともに、四季の変化を楽しむことができるよう、杉山から地区本来の原生植生への転換を図ります。

一乗滝や一乗谷川などの水辺環境を保全するとともに、郷土の景観に調和した護岸整備や親水性の向上などにより、人と水とのつながりを強めます。

③歴史的な雰囲気と調和した公共空間の整備を進めます

電線類の地中化、橋やガードレールの修景、屋外広告物の規制など、道路等の公共空間における積極的な景観整備、規制・誘導を図るとともに、歩行者空間の整備・演出を行い、歴史的な雰囲気を身近に感じながら歩くことのできる道づくりを進めます。

④歴史景観や自然景観と調和のとれたまちなみを誘導します

一乗谷の歴史や周辺の良好な山並みなどと調和のとれた、戦国ロマンが感じられる景観を形成するため、建築物や屋外広告物等の高さや形態意匠、色彩などについて適正な規制・誘導を図ります。

特に、浄教寺町などに残る切妻屋根の伝統的な家並みを保全するとともに、これらと調和のとれた落ち着いたまちなみの誘導を図ります。

⑤視点場として整備・演出します

特別名勝に指定されている朝倉氏 4 庭園や、西山光照寺跡、さらに、一乗滝などの周辺では、自然と歴史が融和している福井らしい原風景を眺望できる視点場として演出します。

一乗谷城が築かれた城山などでは、庭園などとの回遊性を高める散策路を整備するとともに、一乗谷全体を眺望する視点場としての整備・演出を行います。

<景観整備・誘導のイメージ>



・国の特別史跡に指定されている一乗谷朝倉氏遺跡をはじめ、地区内に広く分布する重要な歴史資源を保全します。



・立体復原町並みなども活用しながら、福井県を代表する歴史観光拠点としてのイメージを高めます。



・朝倉城下の繁栄を支えた緑豊かな山並みの保全、四季が感じられる原生植生への転換を図ります。



・一乗滝や一乗谷川などの水辺環境の保全、郷土の自然に調和する護岸整備を進めるとともに、親水性の向上を図り、人とまちとのつながりを強めます。



・橋やガードレールなどは、自然や歴史との調和に配慮し、色彩や素材に工夫します。



・電線類の地中化を進めるとともに、屋外広告物の規制を図り、通りの景観を演出します。



・散策空間の整備・演出を図り、歩行者の回遊性を高めます。



・良好な自然や歴史景観を望む視点場となる場所の整備・演出を行います。



・歴史的な雰囲気と調和した家並みの保全・誘導を図ります。



・自然景観や歴史的雰囲気と調和するよう、建築物の高さや形態意匠、色彩の誘導を図ります。

(4) 人と自然に培われた越前水仙の里を保全する

日本海の荒波が創り出した奇岩奇勝の地形、海岸線まで切り立って迫る山並みとその斜面いっぱいに越前水仙が咲き誇る越前海岸は、日本三大水仙群生地の一つであり、福井県を代表する観光拠点の一つでもあります。

越前水仙は、自然植生として自生するのではなく、水仙栽培を生業とする地域の人々のたゆまぬ努力が密接に結びついたものです。

この福井の冬の景観を象徴する一団の水仙畑を保全するとともに、観光拠点としての魅力を高めるため、次のような取り組みを行っていきます。

①地域の生業に育まれた越前水仙畑を保全・継承します

日本三大水仙群生地の一つである一面の水仙畑を、これを生業とする人々の生活が密接に結びついた文化的景観として位置付け、今後とも良好に保全し、未来に引き継いでいきます。

②越前水仙を育む特徴的な集落景観を保全します

海岸線特有の伝統的な板壁の建築物、切り立った地形に重層的に密集する集落景観を保全するとともに、水仙畑の景観に調和したまちなみの誘導を図ります。

斜面の崩落対策など安全性との整合を図りながら、切り立った斜面景観を良好に整備・修景します。

③公共空間や建築物等を整備・誘導し、観光拠点としてのシンボル性を高めます

拠点施設である水仙ドームなどの公共施設は、周囲の自然景観と調和するよう、高さや形態意匠、色彩などに配慮するとともに、屋外広告物の規制・誘導、電線類の地中化、サインの整備などを図り、観光拠点としてのシンボル性を高めます。

④視点場として整備・演出します

一面の水仙畑だけでなく、これらと密接に結びついている集落景観や奇岩奇勝の海岸景観を一体のパノラマとして眺望することができる視点場の整備・演出を行います。

<景観整備・誘導のイメージ>



・切り立った斜面いっばいに可憐な花が咲き誇り、地域の人々の生業が密接に結びついている越前水仙の文化的景観を保全し、未来に引き継いでいきます。



・狭い地形に密集し、昔ながらの板壁の家並みが残る特徴的な集落景観を保全します。

・水仙ドームなど、多くの人が集まる拠点施設は、特に周辺の自然景観に調和するよう、高さや形態意匠、色彩に配慮します。



・地域の特性が感じられるよう、サインやモニュメントなどを整備し、おもてなしを演出します。



・自然が織りなす美しいパノラマ景観を楽しむ散策路や視点場の整備・演出を行います。



・電線類の地中化や屋外広告物の規制・誘導を図り、良好な道路空間の創出に努めます。

1-2 福井の「地」となる自然景観との共生

(1) まちの背景となる山並みの景観を保全する

福井市東部の白樺山や飯降山、西部の国見岳や越知山などの山並みは、市内のどこにいてもまちなみの背景として望むことができ、また、国見岳に沈む夕日、四季折々に変化する表情なども合せて、福井らしい景観の根幹をなすものです。

福井の「地」となる美しい山並みの景観を保全するため、次のような取り組みを行っていきます。

①四季を彩る山並みの景観を保全します

里山の保全・再生を含めた山並みの景観を保全します。このうち、市東部の美山地区は、杉の植林による産業景観を形成しており、適正な維持管理に努めます。

土石の採取や木竹の伐採などを適切に規制・誘導し、まちの背景としての環境を損ねないよう配慮します。

②山並みへの眺望を阻害しないよう建築物等を適正に規制・誘導します

本市の地形的な特性、東西・南北に碁盤目状に配置された道路網などの都市構造上の特性から、建築物等は常に背景となる山並みとの対比の中で見ることになります。このため、特に大規模な建築物等については、山並みへの眺望を阻害しないよう、高さや色彩などを適正に規制・誘導します。

③ふるさと福井を見下ろす視点場として活用します

東部の白樺山や東山、西部の国見岳などにおいては、わがまち福井を見下ろす良好な視点場として整備・演出を図ります。

<景観整備・誘導のイメージ>



・土石採取についても、周囲の自然景観との調和に配慮した措置・緑の復元を誘導します。



・美山地区に広がる杉山の特徴的な景観を保全します。



・まちの背景としての山並みとの調和に配慮し、特に大規模な建築物等については、高さや形態意匠、色彩を適正に規制・誘導します。



・市街地や日本海を見下ろす視点場として、広場の整備や景観的演出を行います。

(2) ふるさと福井の原風景となる田園景観を保全する

市街地を取り囲む水田などの農地は、米どころ福井を支える産業基盤であり、その営みを通じて四季を感じることができます。

また、そこに点在する集落や社寺などの鎮守の森、用水路などの水辺と一体となって田舎らしい景観を形成していますが、近年の都市の郊外化などに伴って、その良好な景観は失われつつあります。

ふるさと福井を思い起こさせる良好な田園景観を保全するため、次のような取り組みを行っていきます。

①ふるさと福井の原風景となる田園景観を保全します

市街地を取り囲む田園は、ふるさと福井の原風景となり、かつ、市街地景観における中景となる重要な景観資源であるため、他法令や農業施策などとも連携しながら適正に保全していきます。

また、奈良時代の荘園としての様相を今に残す東大寺領荘園（糞置荘）、高須町などの谷あい形成された棚田、海岸線や美山地区などに今も見られるはさ掛けなど、地域固有の農地景観の保全を図ります。

②田園に点在する集落景観を保全・誘導します

田園内に浮島のように点在する集落、里山に張り付くように連なる集落など、広大な田園景観と一体となった集落景観の保全を図ります。

③田園景観を阻害しないよう建築物等を適正に規制・誘導します

良好な田園景観やその背景となる山並みへの眺望を阻害しないよう、特に大規模な建築物等については、高さや色彩などを適正に誘導するとともに、緑化を図ります。

<景観整備・誘導のイメージ>



(3) 白砂青松と奇岩奇勝が続く海岸景観を保全する

延長約 45km におよぶ海岸線は、三里浜特有の植生が見られる砂浜海岸、日本海の荒波が造り出した奇岩奇勝の岩礁海岸、及びこれらに迫って切り立つ山並みの緑が一体となって美しい海岸景観を形成しており、一帯が越前加賀海岸国定公園に指定されています。

福井県を代表する観光・レクリエーションエリアでもある美しい海岸線を保全するため、次のような取り組みを行っていきます。

①海と山とが一体となった美しい海岸景観を保全します

白砂青松と奇岩奇勝が続く海岸線、及びその背後の緑豊かな山並みが一体となって織りなす美しい海岸景観を保全します。

斜面緑地の保全に努めるとともに、特に、枯損の著しい松枯れ対策などを適切に実施し、地域の原風景となっていた白砂青松の海岸景観の再生を図ります。

②美しい自然と調和する公共空間の整備・修景を進めます

防波堤や離岸堤などに使用されている消波ブロック（テトラポッドなど）や切り立った斜面の崩落防止のための防護壁などは、美しい海岸景観を損ねる要因となっており、自然石を用いる、緑化を行うなど、可能な限り修景・改善を図ります。

③連続した海岸景観を楽しめる整備・演出を行います

国道 305 号では、防波堤やガードレール、サインのデザイン、電線類の地中化、建築物や屋外広告物等の高さ・色彩等の規制などにより、車窓からのビスタを良好に演出します。

亀島周辺や江津浦自然公園周辺、ガラガラ山周辺など、美しい海岸景観を眺望することができる場所では、視点場や遊歩道の整備・演出などを行います。

<景観整備・誘導のイメージ>



・砂丘植生や松林などの海岸線特有の植生を保全・再生します。



・視点場の整備・演出を行います。



・電線類の地中化など道路空間の整備・修景を図りながら、車窓からのビスタを良好に演出します。



・安全性に配慮しながら、海岸線の整備・修景を進めます。

(4) まちに潤いを与える水辺景観を保全する

九頭竜川や足羽川、日野川をはじめ、市内には数多くの河川が流れており、まちに潤いを与えているとともに、オープンスペースとしても重要な役割を果たしています。

このほか、市内には数多くの用水路が整備され、古くから地域の人々の生活と密接に結びついています。また、武周ヶ池や五太子の滝、鳴滝など、山々の緑の中に溶け込んだ美しい水辺空間があります。

水辺とその周囲にあるまちなみ、さらにはその背景となる山並みの緑が一体となった美しい水辺景観を保全・形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①身近なオープンスペースとして河川や水路を積極的に活用します

河川敷や堤防などを利用した散策路や広場空間・視点場の整備、並木道づくりや法面の緑化・花植えなど、市民の身近な憩いや余暇活動の場として、河川空間を積極的に活用します。
また、水辺への親水性を高めるための整備・修景を行い、人と水とのつながりを強めます。

②周辺景観との調和に配慮した整備・修景を進めます

河川は、単に水辺として景観を構成しているのではなく、その周囲のまちなみや背景となる山並みと一体となって良好な景観を形成しています。このため、周辺の建築物や屋外広告物等の適正な規制・誘導を行うとともに、景観的アクセントとして、橋を良好にデザインします。

③市民に親しまれる水辺景観づくりを進めます

河川は、その流れを通じて様々な地域が共有する身近な景観資源となっており、環境美化や緑化活動など地域住民と協力し合いながら、市民に親しまれる水辺景観づくりを進めます。

<景観整備・誘導のイメージ>

	・水辺空間とその借景となる山並みとの調和に配慮します。	
	・かつて名橋と謳われた九十九橋や舟橋などのように、水辺におけるアクセント・視点場として橋をデザインします。	
・山並みと一体となっている美しい水辺景観を保全します。	・地域住民などとの協働により、市民に親しまれる潤いのある水辺景観づくりを進めます。	

1-3 地域固有の歴史・文化的景観との共生

(1) 地域固有の歴史景観を継承する

国の特別史跡・特別名勝に指定されている一乗谷朝倉氏遺跡や、福井の「街」の礎となった北ノ庄城址や福井城址などは、福井市のみならず、福井県を代表する重要な景観資源です。

これらのほかにも、地域に伝わる重要な歴史資源、由緒ある神社や寺院、特徴的な外観を有する近世や近代の建築物などが数多くあります。また、鎮守の森や民家の屋敷林など、長い年月をかけて育った巨木や名木なども数多く見られます。

これらの多くは、歴史的・学術的に価値が高いだけでなく、地域住民に親しまれるランドマークとなっており、これらを良好に保全するため、次のような取り組みを行っていきます。

①地域の歴史を物語る重要な歴史景観資源を保全します

南北朝時代の戦乱を生きた豪族・伊自良氏の館跡をはじめとする歴史遺産、地域における信仰の場ともなっている由緒ある神社や寺院、近代福井の発展を象徴するセーレン(株)本館や旧福井信託(株)社屋など、地域における歴史を物語り、景観的なランドマークにもなっている重要な歴史景観資源を保全します。

②地域のランドマークとなっている樹木を保全します

樹齢 350 年におよぶ足羽神社のシダレザクラ、能登家の松や、みおろしの松などをはじめ、地域におけるランドマークとして親しまれ、地域の人々の生活を見守ってきた樹木を、適正な管理方法や管理体制のもとに、次代に引き継いでいきます。

<景観整備・誘導のイメージ>



・地域における歴史を物語り、ランドマークとなっている歴史景観資源を保全・活用します。



・建物に隣接する電柱などを撤去し、景観的なシンボル性を高めます。

・所有者や地域の協力を得ながら、地域のランドマークとなっている樹木を適切に保全・育成します。

(2) 人々の生活や営みに支えられた文化的景観を保全する

奈良時代の荘園の形態がそのまま残る東大寺領荘園（糞置荘）、厳冬の中に可憐な花を咲かせる越前水仙群生地、急峻な谷あいでは営まれている鷹巣地区一帯の棚田、約1億本ものコスモスが咲き誇る宮ノ下地区のコスモス広苑、伝統的な焼畑農法が行われている河内赤かぶらの栽培、冬期に見られる雪つりや雪囲いの光景など、本市は、地域それぞれに個性的な景観が見られます。

これらは、いずれも単なる自然景観ではなく、そこに生活する人々の風土やそれらを生業としている人々のたゆまぬ努力が密接に結びついた文化的景観と呼べるものであり、次代に継承していくため、次のような取り組みを行っていきます。

①人々の生活や営みに支えられた文化的景観を継承します

地域の人々の生活や営みと密接に結びついている良好な自然景観を文化的景観として位置付け、生活環境や営農環境の改善、支援策などを整えながら、次代に継承していきます。

②地域資源を活かしたまちづくり活動を支援します

東大寺お米送り等を行なっている上文殊地区や、棚田のオーナー制に取り組んでいる高須町など、景観資源を活かした地域固有のまちづくり活動に対して、観光施策などとも連携しながら支援していきます。

<景観整備・誘導のイメージ>



(3) 地域固有の様相を残す伝統的な家並みを保全する

福井城下の時代に人や物・文化が通る主要な街道であった(旧)北陸道では、数々の歴史が刻まれ、一部ではその面影を偲ばせる家屋や家並みが残されています。このほか、浄教寺町や在田町、長橋町などの集落においても、地域固有の伝統的な様相を今に伝える家並みが見られます。

しかし、家屋の老朽化などに伴い建て替えが進んでおり、これらの伝統的な集落景観は、年々その数が減少しています。

伝統的な家並みを適切に保存するとともに、これらと調和のとれた特徴的な集落景観を形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①各種制度を活用しながら、伝統的な家並みを保全します

浅水二日町や浄教寺町、在田町などに見られる美しい格子組の妻壁をもつ切妻屋根の家並み、海岸地域に見られる板壁の家並みなど、地域固有の伝統的な家並みについては、所有者の理解と協力を得るとともに、各種法令や制度などを活用しながら、適切に保全・維持管理を行っていきます。

②伝統的な家並みと調和のとれた集落景観の形成を図ります

伝統的な家並みとの調和のとれた昔ながらの集落景観を形成するため、その周辺における建築物や屋外広告物等の形態・意匠や色彩の規制・誘導を図ります。

併せて、電線類の地中化や舗装のグレードアップ、街路灯などの形態や色彩の工夫、沿道の修景などを進め、昔ながらの通りとしての物語性を演出します。

<景観整備・誘導のイメージ>



・(旧)北陸道として栄えた面影を残す家並みを保全します。
・道路などの公共空間の整備・修景を図り、通りとしての物語性を演出します。



・周辺地域の景観特性に調和したまちなみの誘導を図ります。



・地域に伝わる伝統的な形態意匠の家並みを保全します。



・密集と重層性が特徴的な海岸線の集落景観を保全します。

1-4 魅力あふれる都市景観の形成

(1) 快適で潤いのある道路景観を形成する

かつて福井城の城下町として発展した市街地では、都市化の進展によりその面影のほとんどを失いましたが、基盤目状に配置された道路網により、まちの方角が分かりやすい都市構造になっているとともに、まちの「目印」である足羽三山、朝日や夕日を通りからきれいに見ることができます。

特に、戦災復興土地区画整理事業により、市街地の中央に東西・南北に配置された広幅員のシンボルロードやフェニックス通りは、まさに県都福井市のシンボルとなる通りです。

これらの通りでは、電線類の地中化や街路樹の植栽、舗装のグレードアップなどの道路景観の整備を行っており、また、地域が主体となった花づくり活動なども見られます。

景観を構成する上で最も基本となる要素として、緑豊かで潤いのある道路景観を形成するとともに、人々が安心して、また、楽しみながら歩ける道づくりを進めるため、次のような取り組みを行います。

①ゆとりと潤いのある道路空間を形成します

電線類の地中化やサインの整理などを行い、すっきりとした道路景観の形成を図ります。

幹線となる道路網だけでなく、住宅地内や裏通りなどにおいても、四季の変化が感じられ、緑陰のできる街路樹の整備及び適切な維持管理を行い、緑豊かなまちなみの形成を図ります。

交差点やまちかどでは、緑化・修景や広場空間の整備などにより、出会いの場を演出します。

②まちの方角を意識した道路景観を形成します

東の白山連峰、西の国見岳、まちの目印である足羽山などへの「山当て（通りなどの軸線に対して、その正面に山が見える状況）」となる通りについては、特に良好な道路空間の整備・演出を行います。

新たに道路網を整備する際にも、「山当て」など、まちの方角を意識した配置を行うとともに、可能な限りゆとりある幅員で整備を行います。

③ストリートファニチャー等の工夫により、通りに個性や連続性を創出します

街路灯や電柱、電力機器、ガードレール、サイン、ゴミ置き場などのファニチャー類については、デザインや色彩、素材などを工夫し、連続性のある道路景観を形成します。

特に、地域の景観特性やまちづくりのテーマなどに応じて通りごとに特徴をもたせ、物語性の感じられる道路空間を創出します。

④魅力ある歩行者空間を形成します

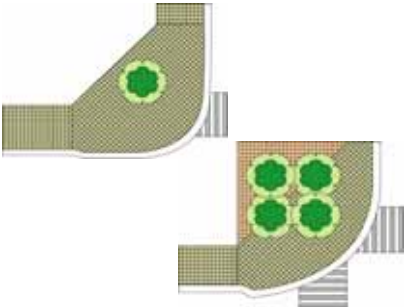
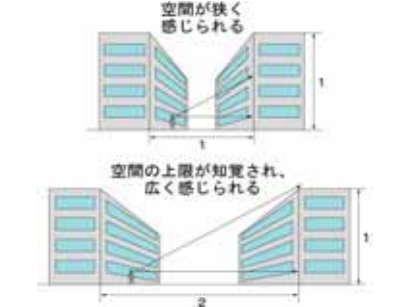
街路樹やベンチ、ポケットパークなどの整備により、歩行者の快適性を高めるとともに、地域の景観特性に応じた舗装のグレードアップや修景、さらに街路灯やフットライトによる夜間の演出などを行い、回遊性のある魅力的な歩行者空間を形成します。

⑤市民との協働により、道路景観のさらなる魅力向上を図ります

落ち葉やごみの清掃、植樹柵などを利用した沿道の花植えなど、地域住民との協働により、市民が愛着もてる道路景観づくりを進めます。

第4章 景観形成の方針(基本方針)

<景観整備・誘導のイメージ>

		
・電線類の地中化と合わせて、すっきりとした道路景観を形成します。	・四季が感じられる緑豊かな街路樹の整備を進めます。	・隅切りに広がり確保し、まちかどに広場を形成します。
		
・「山当て」となる通りの整備・演出を行います。(足羽山への山当て)	・福井の玄関口である福井駅への眺望を意識した景観を形成します。	・同じ沿道利用であっても、道路幅員によって受ける印象が異なります。
		
		
・通りとしての連続性や地域の景観特性に配慮してデザインします。	・昼夜を問わず楽しみながら歩ける歩行者空間を整備・演出します。	・ゴミ置場や自動販売機等についても、周辺景観との調和に配慮します。
		
・地下への入り口、地下道についても良好にデザインします。	・市民との協働により、愛着もてる道路景観の形成を進めます。	上: 放置自転車の撤去を図ります。 下: 街路樹の剪定を工夫します。

(2) 福井らしい鉄道景観を演出する

JR 福井駅は、県都福井市の玄関口であり、訪れる人が最初に福井らしさを実感する場所として重要な役割を果たしています。これまで鉄道により東西に分断されていた市街地は、福井駅付近連続立体交差事業により通りとしてつながりました。

フェニックス通りや駅前電車通りを走る福井鉄道には、平成 18 年から低床車両が導入されたほか、山間部を走る越美北線、えちぜん鉄道など、福井固有と言える鉄道景観が見られます。

県都福井市の玄関口として、訪れる人をもてなし、福井らしさを実感させるとともに、福井固有の鉄道景観を良好に形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①降り立つ人が福井らしさを実感できる駅景観を形成します

県都福井市の玄関口である JR 福井駅は、北陸新幹線駅の整備を含めてシンボリックなデザインとなるよう整備を進めます。

駅東西広場の整備と併せ、花や緑などによる潤いの創出、城下町のイメージづくり、夜間のライティングなどにより、福井らしさを実感させるとともに、訪れる人をもてなします。

フェニックス通りや駅前電車通りを走る路面電車の駅・停留所、一乗谷朝倉氏遺跡への入口となる一乗谷駅では、特に周辺景観との調和に配慮した整備・修景を行い、このほかの鉄道駅についても、環境美化や緑化などによる修景を図ります。

②周辺の景観と調和した鉄道施設を整備します

鉄道の高架化により、その高架構造物が視対象となることから、今後の北陸新幹線福井駅開業に伴う整備と併せて、周辺の景観に調和するよう景観整備・修景を進めます。

福井鉄道のうち、路面電車として走る区間は、道路面との段差が指摘されることから、適切に維持・補修を図っていきます。

駅や鉄道を見る景観だけでなく、鉄道から見える景観に配慮したまちなみ整備を進めます。

<景観整備・誘導のイメージ>



(3) 福井らしい建築物等を誘導する

福井市では、「福井市都市景観条例」に基づく大規模建築物等として、色彩や形態意匠などのデザインに関する誘導基準を定め、届出制度により誘導を図ってきました。

都市景観賞に表彰される建築物など、良い建築物が増えている反面、周辺景観との調和を乱す大規模な建築物や騒色に彩られた建築物も増えています。

都市基盤が整備された市街地で新たな建築活動が進むほか、特に、戦災復興から約 50 年が経過した福井都心地区では、今後、建築物等の更新が一斉に進むことが予想されます。

道路などの公共空間と一体となった美しいまちなみづくりを進めるため、次のような取り組みを行っていきます。

①景観形成の先導役として、公共施設を魅力的にデザインします

公共施設は、市民や事業者が建築物等を良好にデザインするための先導役として、周囲の景観特性に配慮しながら、魅力的にデザインします。

併せて、多くの人が集まる場所として、開放的な広場空間の創出を図ります。

②大規模な建築物等を良好にデザインします

周辺の景観に影響を与える大規模な建築物については、道路などの公共空間に面する側へのオープンスペースの創出を誘導し、公共空間と一体となったまちなみを形成します。

また、周辺の景観との調和に配慮して、高さや形態意匠、色彩、緑化などの誘導を図り、連続性や統一感、潤いのあるまちなみを形成します。

③安らぎのある住宅地景観を形成します

景観に対する市民意識の高揚を図りながら、周辺の家並みとの調和に配慮し、高さや色彩、壁面の位置などを揃えるよう誘導します。

地区計画制度や建築協定、緑地協定などのルールを活用しながら、潤いと安らぎのある住宅地景観を形成します。

④もてなしと賑わいのある商業地景観を形成します

建築物のファサード面や高さ、色彩などを揃え、まちなみとしての連続性を創出するとともに、店先の緑化、シースルーシャッターや夜間のライティングなどにより、昼夜を問わず人々が集まるような、賑わいともてなしのある商業地景観を形成します。

⑤潤いのある工業地景観を形成します

道路等の公共空間に面する側にオープンスペースを設けるとともに、敷地周辺において積極的な緑化を行い、緑豊かな工業地景観を形成します。

<景観整備・誘導のイメージ>



・良好な景観形成の先導役として、公共施設を良好にデザインします。



・多くの人が集まる場所として、広場空間の整備や修景を行います。



・地域におけるランドマークとなっている良好な建築物等を保全します。



・良好にデザインされた建築物を誘導します。



・大規模な建築物は、特に周辺景観との調和に配慮してデザインします。



・建築物の壁面をセットバックし、緑化・修景を行います。



・屋外階段や室外機等は、公共空間から目立たないように工夫します。



・夜間も含め、魅力ある商業地景観を形成します。



・協定などのルールを活用しながら、潤いある住宅地景観を形成します。



・店先を花や緑で彩り、もてなしのある景観を形成します。



・建築物の壁面や屋上の緑化を推進します。



・緑あふれる工業地景観の形成を誘導します。

(4) 福井らしい屋外広告物を誘導する

店舗や事業所などの存在をアピールする、企業イメージを印象付けるなど、屋外広告物が果たす役割は、企業にとって大きいものがあります。

福井市では、大規模建築物と同様に、「福井市都市景観条例」に基づき屋外広告物に関する色彩や形態意匠などの誘導基準を定め、届出制度により誘導を行ってきました。

しかし、適切な規制・誘導が困難な状況となっており、特に近年は、大規模化されたものや騒色に彩られたもの、過剰に表示されたものなどが増加しており、屋外広告物が景観を損ねている例が見られます。

道路などの公共空間や建築物等と一体となって、良好なまちなみや景観を形成するため、以下のような取り組みを行っていきます。

①「福井市屋外広告物条例」に基づく適正な規制・誘導を行います

これまでの自主条例としての「福井市都市景観条例」に基づく規制・誘導策では、禁止地域の指定や面積基準の強化などの法的強制力に欠けることから、福井市独自の基準として、屋外広告物法に基づく「屋外広告物条例」を制定し、屋外広告物の適正な規制・誘導を図ります。

また、貼り紙や違反広告物などの違法な屋外広告物について、取締りの強化および早期撤去を図ります。

②建築物と一体となって良好なまちなみを形成します

建築物の屋上や壁面に設置する屋外広告物については、建築物との一体性に配慮するとともに、スカイラインやファサード面の統一を損ねないように、また、人々に圧迫感を与えないよう、大きさや高さ、色彩などについて適正な規制・誘導を図ります。

また、窓面などへの過剰な広告物の表示を規制するとともに、建築物の壁面への直接的な表示などについても、適切に規制していきます。

③福井らしさを象徴する場所では重点的に規制・誘導を行います

県都福井市の玄関口である JR 福井駅周辺には、屋外広告物が特に過剰に設置されており、福井の都市イメージを低下させる要因となっています。このため、訪れた人が最初に福井らしさをイメージする重要な場所として、重点的に規制・誘導を行います。

福井城址周辺や一乗谷朝倉氏遺跡周辺、越前海岸一帯、足羽三山や足羽川の周辺、主要な観光ルートなどにおいては、地域の良い景観を損ねないように、また、地域の景観特性と調和するよう、高さや色彩、素材などの規制・誘導を図ります。

④良好な沿道景観の形成を図ります

幹線道路の沿道や大規模な交差点などでは、特に大規模な屋外広告物や騒色に彩られた屋外広告物が乱立・群立する状況になっています。このため、統一したルールや基準に基づき、事業者などとも協力しながら良好な沿道景観の形成を図ります。

<景観整備・誘導のイメージ>

(屋外広告物が景観を損ねている例)



・建築物の壁面や屋上に屋外広告物が所狭しと掲出された駅前の景観



・歩行者に圧迫感を与えるまちかどの屋外広告物



・車窓からの田園景観を損ねている野立て看板

(写真はいずれも、「悪い景観 100 選 (美しい景観を創る会) より」)



・壁面広告 (付属広告物) は、建築物と一体となったデザインで、控えめなものとしします。



・地上広告は、建築物と調和するようにデザインするとともに、複数の事業所を一つにまとめ、すっきりとした景観を形成します。



・突出広告は、ファサードを損ねないように、道路空間への突出しを制限するとともに、店舗の個性を活かしたデザインの工夫を行います。

(5) 福井らしさをイメージするサイン等を設置する

公共サインや誘導サインを良好にデザインすることは、都市のイメージを高め、また、訪れる人に対して地域特性をイメージさせる上でも重要なことです。

福井市では、平成7年に「福井市公共サインマニュアル」を作成し、これに基づいたサインの設置を進めてきました。

訪れる人を適切に誘導するとともに、地域固有の景観特性を演出するために、以下のような取り組みを行います。

①統一性のあるサインを設置します

歩行者や車両を適切に誘導するとともに、福井市全体として統一感のあるまちなみや通りを演出するため、人々の行動の起点となる場所、幹線道路の分岐点などに「公共サインマニュアル」に基づく統一されたサインを設置し、適切な維持管理を行っていきます。

②地域の景観特性を活かしたサインやモニュメントを設置します

一乗谷朝倉氏遺跡周辺や越前海岸などの特に良好な自然・歴史景観を形成している場所、商店街等の賑わいを創出する場所などでは、デザインや色彩、素材などを工夫し、地域の景観特性に応じた物語性が感じられるサインやモニュメントを設置し、誘導性や回遊性を高めます。

山当てとなる通りやアイストップとなる景観資源を臨む通りなどでは、案内標識や規制標識を含めて、大きさや高さについても適切に誘導していきます。

<景観整備・誘導のイメージ>



・「公共サインマニュアル」に基づき、統一性のあるサインを設置し、人や車両の適切な誘導を図るとともに、通りとしての連続性を演出します。



・山当てとなる通りなど、アイストップとなる場所では、サインを整理するとともに、大きさにも配慮します。



・地域の景観特性を活かして統一的にデザインし、誘導性や回遊性を高めます。



・地域に伝わる歴史を活かしたモニュメントなどにより、通りとしての物語性を演出します。

(6) 水と緑の回廊を創出する

水や緑は、潤いや安らぎが感じられる景観を形成する上で最も重要な要素です。

福井らしい景観とは、美しい自然に歴史・文化が溶け込んでいる、まさに日本の原風景が感じられる景観であると言えますが、特に市街地では、効率性を重視した画一的な都市基盤の整備が行われてきたこともあり、自然とのつながりを身近に感じるができない状況も見られます。

人やまちと自然とのつながりを保全・再生し、緑豊かで潤いのある景観を形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①足羽三山や足羽川につながる水と緑のネットワークを形成します

まちの「目印」である足羽三山の良好な景観や風致を保全し、シンボル性を高めます。

まちの中心を流れる足羽川においては、堤防の桜堤や桜並木を後世に伝えとともに、郷土の自然植生などをいながら、自然本来の河川へと再生を図ります。

足羽山や足羽川を中心として、水辺や道路空間を利用しながら、広がりのある水と緑のネットワークを形成します。

②緑豊かなオープンスペースを創出します

市民の身近な遊戯や憩い、散策などの場である公園では、緑陰ができる高木や四季が感じられる広葉樹の植樹、広場の芝生化など、積極的な緑化を進め、緑豊かな空間を創出します。

また、まちかどや空き地などのオープンスペースを利用して、身近に憩えるポケットパークとして整備・修景します。

③まちなかにきめ細かく緑を配置します

裏通りを含めた道路の緑化、住宅地や商業地・工業地の緑化、緑豊かな鎮守の森の保全など、まちなかにきめ細かく緑を配置し、潤いと安らぎが感じられるまちなみを形成します。

<景観整備・誘導のイメージ>



(7) 魅力ある夜間景観を創出する

福井市の景観形成を考える上で、夜間景観は重要な側面の一つです。夜の景観には、昼の景観とは一味違った魅力を見い出すことができます。

魅力ある夜間景観を創出するためには、特に以下の点に留意することが必要となります。

- 市民が誇りと愛着をもてるまちを演出する
- 地域の個性や賑わいを創出し、商業や文化の振興に寄与する
- 来訪者が何度も訪れたいと思えるまちをつくる

夜間景観の形成とは、単にまちを明るくすること、自動車や歩行者の安全性のためにまちを照らすことではありません。光を効果的に演出するためには、光の種類や照らし方の工夫、暗の部分の演出が重要となってきます。

市民が誇りをもち、昼間だけでなく夜間も賑わいのある、何度も訪れたいと思えるような魅力ある夜間景観を形成するため、次のような取り組みを行っていきます。

①福井らしさが実感できる場所を魅力的に照らします

福井らしさを実感することができる都心地区では、中心市街地活性化や観光振興策などの面からも、特に重点的な夜間景観の整備・演出、夜景を活かしたまちづくりの推進を図ります。

道路や公園などの公共空間、商店街、福井城址や養浩館庭園などの歴史空間、足羽川や足羽山などの自然空間など、場所性や景観特性に応じた効果的なライティングを図ります。

また、季節によって演色性を変える、季節性を活かした特徴的なイルミネーションの設置など、四季を通じて楽しめる夜間景観の演出を図ります。

②人々を誘導する光の回廊を形成します

通りや歩行者空間等を街路灯やフットライトなどにより演出し、夜間においても楽しみながら歩くことのできる光の回廊の形成を図ります。

③夜間景観を眺望する視点場を整備・活用します

歩いて楽しむことができる夜景づくりだけでなく、上から見下ろした夜景も楽しめるよう、視点場となる場所の整備や公共施設などの活用を図ります。

この際、光の集積による効果をいっそう高めるために、照らさない部分の演出（明と暗の使い分け）にも配慮します。

④地域固有の景観資源に光を当てます

一乗谷朝倉氏遺跡周辺をはじめ地域固有の景観資源や多くの人が集まる公共施設などについても効果的なライティングを図り、夜間の観光やデートスポットなどとして活用を図ります。

⑤市民・団体、事業者との協働により推進します

まちや地域全体が光に包まれた美しい夜間景観、また、市民に愛される夜間景観を形成するため、行政による街路灯などの整備だけでなく、商業者をはじめとする民間、団体や地域などが協力し合いながら、きめ細かく取り組んでいきます。

<景観整備・誘導のイメージ>



- ・骨格となる通りは照明を統一し、通りとしての連続性を演出します。
- ・商店街は明るく照らすなど、通りやルートによって特徴をもたせます。
- ・色合いの変化やイルミネーションの設置などにより、季節感を演出します。



- ・商店街や公園など、人が集まる場所では、賑わいのある夜間景観を演出します。
- ・道路空間だけでなく、建物の中からも効果的に演出を行います。



- ・歴史景観にも光を当て、夜間においてもその存在を意識付けます。
- ・単に照らすのではなく、光を当てるモノの特性や構造を考慮して、光を当てる場所や角度なども工夫することが必要です。



- ・市民に親しまれている水辺空間に光を当て、夜間における散策ルートとして活用します。



- ・夜間における回遊性を高めるため、フットライトなどによる統一した演出を図り、光の回廊を形成します。



- ・足羽山や八幡山などにおいて、市街地を一望する視点場の整備・演出を図ります。
- ・夜景の美しさを際立たせるためには、対比となる暗の部分も重要です。



- ・行政と民間、団体等が協力しながら、きめ細かな地域の夜景づくりに取り組みます。

1-5 福井らしい景観を育む人づくり

(1) 福井プライドをもった市民の育成

日本の原風景ともいべき美しい自然景観や全国に誇れる貴重な歴史的資源を有し、住みよさランキング全国1位という評価を得ている一方で、ゴミのポイ捨てや落書き、放置自転車、違法駐車などのマナーの悪さが指摘されており、そこに住んでいる福井市民の意識が伴っていない面がみられます。

美しい福井市を創り、守り育てていくのは市民であり、また、市民一人ひとりが景観を構成する要素であることを認識しなければなりません。

このため、市政広報やホームページなどのマスメディアの活用や、セミナーなど様々な場や機会を用意し、景観に対する価値観の醸成を図り、福井市民であることに誇りを持ち、福井らしさを語ることができる市民を育みます。

(2) 市民参画体制の確立

景観づくり地域団体や都市景観賞（活動部門）、福井市が平成6年から10年間にわたり取り組んできた「うらがまちづくり推進事業」、「21世紀わがまち夢プラン事業」などを通じて、市民がまちづくりに参画する意識は確実に根付いています。

今後、さらに市民が誇りをもって福井らしい景観を育んでいくためには、市民・団体、事業者、行政が互いに役割分担を明確にする必要があります。

その上で、より多くの市民が参画できるよう、できるだけ多くの場を設けていくとともに、市民・団体、事業者が主体的に取り組むことができるような助成や支援体制の充実を図ります。

また、景観法や身近なまちづくり推進条例(略称)、(仮称)緑のまちづくり条例などと連携・活用しながら、景観形成に対して市民や団体などから提案できる制度を整えます。



市民主体による景観形成を推進します



市民や団体等による活動を支援します



市民と行政が協働で取り組みます

(3) 優れたデザインを生み出す仕組みづくり

景観形成に関する窓口を専門化し、建築物や屋外広告物等の形態・意匠に対し、円滑かつ専門的に審査していきます。

また、都市景観審議会の活用や景観アドバイザーの認定など、良好な景観の形成に向けてより専門的な立場から審査・助言する体制を確立し、優れたデザインを生み出していきます。